NEWS RELEASE

2026.11.20

日本最適化栄養食協会が国際人口問題議員懇談会、アジア人口・開発協会と「人口と栄養セミナー」を共催
日本発のフードテック“最適化栄養食”による社会課題解決について議論

一般社団法人 日本最適化栄養食協会（以下当協会、理事長：伊藤裕）と国際人口問題議員懇談会（以下 JPFP、会長：上川陽子）、公益財団法人アジア人口・開発協会（以下 APDA、理事長：武見敬三）は、2026 年 11 月 18 日（水）、衆議院第一議員会館（東京都千代田区）において、国会議員をはじめとする政府関係者を対象とした人口と栄養セミナー「日本発フードテックによる社会課題解決」を共催いたしました。

“最適化栄養食”が担う新たな「食のインフラ」としての役割に期待
多様な栄養課題の現場で活躍する“最適化栄養食”の実例を紹介



登壇者集合写真（写真左から）日清食品ホールディングス株式会社 執行役員 後野和弘氏、株式会社デニーズジャパン 吉岡奈津美氏、クックデリ株式会社 坂口真由香氏、当協会理事長 伊藤裕、一般財団法人日本栄養実践科学戦略機構 代表理事 理事長 中村丁次氏、JPFP 会長 上川陽子氏、APDA 理事長 武見敬三氏、株式会社ミライロ代表取締役社長 垣内俊哉氏、公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン 福田愛氏、一般社団法人ヤングケアラー協会代表理事 宮崎成悟氏、APDA 評議員 医学博士 狩野光伸氏

本セミナーは多数の報道陣が集まる中、産学官民が一堂に会し、日本発のフードテックによる「社会課題の解決」に向けた熱心な議論が交わされました。

現代の日本社会においては、急速な人口減少と高齢化、生活様式の変化に伴い、様々な「食と栄養の課題」が深刻化しています。厚生労働省「令和 6 年国民健康・栄養調査」では、20～30 歳代女性の「やせ」の割合が 16.6%に達し、健康日本 21（第三次）の目標値（15%未満）を上回る状況が続いており、過剰な食事制限は将来の骨粗鬆症や生活習慣病、次世代の健康リスクに直結します。また、当協会が障がい者を対象に実施した調査では、日々の食事に対する満足度が 25%にとどまり、また偏食率が高く栄養バランスへの不安を抱えているという実態が明らかになっています。さらに、

同省「令和 3 年度子ども・子育て支援推進調査研究事業」によると、ヤングケアラーを把握する自治体等の 66.3%がその具体的なケア内容として「食事の世話」を挙げており、日常的な調理負担が子どもたちの教育や成長の機会を制約している実態があります。
本セミナーでは、こうした「食と栄養の課題」に対し、主要な栄養素がバランス良く適切に調整された日本発のフードテック“最適化栄養食”を、誰もが日常的にアクセスできる新たな「食のインフラ」として位置づけ、実際に活用されている事例などが紹介されました。
冒頭、JPFP 会長を務める上川陽子衆議院議員（元外務大臣・元法務大臣）が開会挨拶に立ち、「『飽食』と言われる日本で、低栄養が子どもから高齢者まであらゆる世代の大きな社会問題になっている。本セミナーでは、日本のフードテックが生み出した“最適化栄養食”という新しい食のカテゴリーが日本と世界が抱える社会課題の解決にどう貢献できるのか、皆さんと一緒に学びたい」と述べました。



開会の挨拶をされる上川陽子衆議院議員

基調講演では、一般財団法人 日本栄養実践科学戦略機構の中村丁次代表理事 理事長が「Nutrition Dignity:栄養は人間の尊厳である」と題して登壇。食料確保だけでは健康を守れないとし、「食料の権利」と「健康の権利」をつなぐ「栄養ケアの権利」の確立と、基盤となる「栄養の尊厳」の理念を説きました。続いて、当協会理事長の伊藤裕が「メタボリックドミノと最適化栄養食」をテーマに講演し、肥満を起点に疾患が連鎖する考え方や、低栄養・フレイルを含む未病段階での食による早期介入の重要性を指摘。主要な栄養素のバランスが適切に調整された“最適化栄養食”の普及状況や災害等支援活動の実績を紹介しました。



基調講演をする日本栄養実践科学戦略機構の中村丁次代表理事 理事長



基調講演をする当協会理事長の伊藤裕

このリリースに関するお問い合わせ先
「一般社団法人 日本最適化栄養食協会」
東京都渋谷区千駄ヶ谷三丁目 50 番 11 号
contact@saiteki-eiyo.org

セミナーの中盤では、“最適化栄養食”の事例紹介・質疑応答（ファシリテーター：APDA 評議員・医学博士 狩野光伸氏）が行われました。一般社団法人ヤングケアラー協会の宮崎成悟代表は「食を入口としたヤングケアラー支援」について、ヤングケアラーの現状を伝えた上で、家庭における食事のケアに負担を抱えている子どもたちへの“最適化栄養食”による支援が有効に機能している事例を説明しました。公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパンの福田愛グループリーダーは「若年女性の『食』とウェルビーイング」について、若年女性の居場所を提供する「わたカフェ」「ゆうカフェ」の現場から複合的困難を抱える女性の実態について説明。「ちゃんと食べる」を押しつけず、“最適化栄養食”など手軽な食事提供を入り口に相談や支援へつなぐ実践を報告しました。株式会社ミライロの垣内俊哉社長は「バリアバリュー 障害を価値に変える」と題し、「環境・意識・情報」の 3 つのバリアと、当協会で実施した障害を持つ方の食と栄養の調査結果を紹介。その結果、ウェルビーイング度・食の満足度が低い傾向があることが分かりました。簡便さや表示のわかりやすさへのニーズを挙げ、事業性と社会課題解決を両立し、「食のバリアも、新たなバリューへ」変える視点を提示しました。
並行して、“最適化栄養食”の試食が行われ、クックデリ株式会社、株式会社デニーズジャパン、日清食品株式会社の 3 社がそれぞれ開発・販売している“最適化栄養食”を提供しました。


ヤングケアラー協会　宮崎 成悟氏


プラン・インターナショナル・ジャパン 福田 愛氏



ミライロ 垣内 俊哉氏

最後に、APDA の武見敬三理事長（元厚生労働大臣）が閉会挨拶を行い、「社会的に弱者の立場にいらっしゃる方々をしっかり巻き込みながら、国民全体がより健康な社会をつくる上で、“最適化栄養食”をいかに官民が連携しながら普及させていくかが課題である。超高齢化社会をより健康で活力の満ちた社会にするために、本セミナーは大変有意義であった」と総括し、盛況のうちに閉会いたしました。


閉会の挨拶をされる武見敬三氏

当協会は、今後も産学官民の知見を結集し、世界の多様な栄養課題に貢献しうる“最適化栄養食”の普及を推進し、食によるウェルビーイングの実現を目指します。

このリリースに関するお問い合わせ先
「一般社団法人 日本最適化栄養食協会」
東京都渋谷区千駄ヶ谷三丁目 50 番 11 号
contact@saiteki-eiyo.org

■登壇者プロフィール

中村 丁次 氏

一般財団法人 日本栄養実践科学戦略機構 代表理事 理事長

1972 年徳島大学医学部栄養学科卒業、1975 年より聖マリアンナ医科大学病院にて管理栄養士として勤務。2003 年より神奈川県立保健福祉大学にて研究・教育に従事し、2011 年から 2023 年 3 月まで同大学学長を務めた。神奈川県立保健福祉大学名誉学長、公益社団法人日本栄養士会代表理事会長。約 100 年にわたる日本の栄養政策の歴史の後半部分に直接関わってきた功績は、国内外で高く評価されている。令和 7 年春の叙勲にて瑞宝中綬章受章。

伊藤 裕 氏

一般社団法人 日本最適化栄養食協会 理事長／慶應義塾大学名誉教授／慶應義塾大学 予防医療センター特任教授

京都大学医学部卒業。同大学院医学研究科博士課程修了。ハーバード大学、スタンフォード大学医学部にて博士研究員、京都大学大学院医学研究科助教授を経て、慶應義塾大学医学部内科学教授を歴任。現在は、同大学名誉教授および予防医療センター特任教授を務める。専門は内分泌学、高血圧、糖尿病、および抗加齢医学（アンチエイジング）。「メタボリックドミノ」の提唱者としても知られ、学術研究から予防医療の社会実装まで幅広く取り組んでいる。

宮崎 成悟 氏

一般社団法人ヤングケアラー協会 代表理事

大学卒業後、国内大手医療機器メーカーに入社。

介護離職後、複数のベンチャー企業を経て、2019 年からヤングケアラーのオンラインコミュニティや就職・転職支援を開始。2021 年、一般社団法人ヤングケアラー協会を設立。

福田 愛 氏

公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン 国内支援事業グループリーダー

日本社会事業大学社会福祉学部卒業。更生保護施設、子ども家庭支援センター、若年女性シェルターでソーシャルワーカーとして活動。2020 年より現職。女の子・若年女性の居場所「わたカフェ」の運営を担当。

垣内 俊哉 氏

株式会社ミライロ 代表取締役社長

2010 年、立命館大学在学中にミライロを設立。2013 年、日本ユニバーサルマナー協会代表理事に就任。「バリアバリュー」を理念に、ユニバーサルマナー検定やデジタル障害者手帳「ミライロ ID」などの事業を展開。

このリリースに関するお問い合わせ先
「一般社団法人 日本最適化栄養食協会」
東京都渋谷区千駄ヶ谷三丁目 50 番 11 号
contact@saiteki-eiyo.org

■「国際人口問題議員懇談会」(JPFP)について

人口分野に対する国際協力を支援し、日本の経験を世界に伝えるべく、1974 年 4 月、人口問題とそれを取り巻く資源・食料危機に深い関心を寄せる国会議員によって、世界初の人口問題に関する超党派議員組織として結成された議員連盟。

■「公益財団法人 アジア人口・開発協会」(APDA)について

人口問題と開発に関する調査研究及び国際協力を通じて、国際的な社会開発と経済発展に寄与し、日本及びアジア、アフリカを中心とする開発途上国等における福祉の向上と平和の確立及び持続可能な開発の達成に資することを目的とした協会。

■「一般社団法人 日本最適化栄養食協会」について

年齢や性別、生活習慣など、一人ひとりの状態に合わせて主要な栄養素がバランスよく適切に調整された食を通じ、人々のウェルビーイング（身体的・精神的・社会的に良好な状態にあること）に資することを目的とする協会。

■“最適化栄養食”とは

“適化栄養食”は、年齢や性別、生活習慣などに応じて、一人ひとりの状態に合わせて主要な栄養素がバランスよく適切に調整された食です。日本最適化栄養食協会では“最適化栄養食”の栄養設計を登録し、製品認証を行っています。

■“最適化栄養食”認証マークについて

“最適化栄養食”認証マークは、当協会に登録された栄養設計基準を過不足なく満たすことのできた製品にのみ付与されます。

■「一般社団法人 日本最適化栄養食協会」ウェブサイト

［URL］https://www.saiteki-eiyo.org

このリリースに関するお問い合わせ先
「一般社団法人 日本最適化栄養食協会」
東京都渋谷区千駄ヶ谷三丁目 50 番 11 号
contact@saiteki-eiyo.org